



JIPPO(十方)の願いと歩み

なかむら ひさし
中村 尚司

現代アジアの仏教は、大きな転換期を迎えている。釈尊^{しゃくそん}が悟り^{さと}を開いたインドでは、仏教興隆の運動が高揚してきた。1950年代にマラーシュトラ州の一角で始まった不可触民による仏教への改宗は、西部インドから療原^{りょうげん}の火のように全土に広がった。昨年、タイの国際会議で会ったダリット¹仏教運動の指導者は、インド政府の不可触民政策によって公式統計では低い数字のままであるが、ブッダの教えを信じるインド人は、実質的には1億人を超えると言った。

国境を越えて広がるチベット仏教、カトマンドゥ盆地に根づくネパール仏教、古代から存続するベンガル仏教などとの交流も進んでいる。上座部仏教の本拠地であるスリランカでも、ダリット仏教の僧侶に会う機会が増えた。そのスリランカ仏教も、転換期を迎えている。原始仏教の教団生活を古典的な形で受け継いでいるという俗信とは別に、21世紀に入ると、政党を組織して黄色の僧衣を肩に国会で活躍したり、反政府軍の軍事的な制圧を高唱したりする住職も増加した。教理的にも、ブッダゴースアによって体系化された戒律への批判が公然と行われるようになった。最上位カースト以外は得度^{とくど}を許さなかった、マルワッタ教団やアスギリヤ教団でも、伝統的なカースト制を堅持することが困難になってきた。

上座部仏教の教義を受け継ぐタイでは、前世紀の後半からブッタタート師(サンスクリット読みではブッダダーサ)による改革運動が広がり、社会活動や国際貢献に向かう寺院や僧侶が増えている。その後継者であるパユット一師、カムキエン師、パイサン師などの運動は、カンボディア、ラオス、ビルマなど上座部仏教へもつながっている。岩手県からタイのビルマ国境に移住し、その流れに棹^{さお}さす光男カウエーサコ師は、ビルマ難民の支援をしていることで知られているが、同師の法話も広く読まれ、1千万を超える刊行部数となっている。隣国のビルマでは、弾圧にもひるまず軍事政権に対して民主化を説く僧侶も増えた。

眼を東アジアに転ずると、モンゴルの仏教復興運動、文化大革命の傷痕をいやしつつある中国仏教、キリスト教団との対話を進める韓国の寺院、国際貢献に熱心な台湾の仏教界など、各地に新しい動きが生まれつつある。2010年4月

に本願寺築地別院で開催された国際エンゲージド仏教ネットワーク (INEB)ⁱⁱによる「東アジア国際フォーラム」は、仏教徒による社会活動のあり方をめぐって、熱心な議論が^か交わされた。20年前に発足し、タイに本部を置く INEB は、このような新しい潮流の連絡調整、情報交換、共同事業の企画、国際会議の開催を行い、新しい時代の社会活動を^{もさく}模索している。ヨーロッパやアメリカからの仏教徒も多く参加している。

浄土真宗本願寺派による社会活動や国際貢献も、このような世界的規模での新たな仏教復興運動と無縁ではなかろう。

2008年11月に京都府から認証を得た JIPPO は、内外の社会的な貢献を^{にな}担いたいという願いから、浄土真宗本願寺派を基盤として発足した。宗教法人の枠組みを超えた NPO 法人としての組織づくりに取り組んでいる。1979年に発足した「曹洞宗東南アジア難民救済会議」を前身とする曹洞宗国際ボランティア会、それを継承したシャンティ国際ボランティア会 (SVA) の活動から多くを学んでいる。

眼前の貧困問題に取り組むために、ひと月に3日間、龍谷大学ボランティア NPO 活動センターと協力して、京都市南部の野宿者支援を始めた。同時にスリランカの農園労働者を支援するため、無農薬紅茶のフェアトレードⁱⁱⁱを始めた。続いて、東チモールのコーヒー生産者を支援する無農薬コーヒーの販売に取り組み、フェアトレードを多角化している。ミャンマーではサイクロン被災者を支援するとともに、学童に文具を届けたり、給食事業を^{おぎな}補ったりしてきた。世界最大規模といわれるインドのムンバイ・スラムを舞台とする映画「スラムドッグ\$ミリオネア」(アカデミー賞作品)を上映するとともに、その原作者であるヴィカース・スワループ氏(在大阪インド総領事)を招き、「平和と貧困を^{つど}考える集い」を開催した。

国際貢献の一環として、スリランカの紅茶産地を訪ねるスタディ・ツアーの機会に、農園労働者の子どもたちの幼稚園の校舎建設や遊具の新設も進めることにした。あわせて幼稚園教員の研修事業を行うなど、ささやかな教育事業も実施している。タイの仏教寺院による社会貢献を学ぶ旅を企画して、「エンゲージド仏教」の実践活動の現場を訪ねた。そしてタイ西部で難民支援や環境保全に取り組む光男カウエーサコ師を招き、龍谷大学実践真宗学研究科と共同で講演会を行った。

環境問題については、「アミダの森」の植林活動に参加して、中国内モンゴルの砂漠緑化活動を調査し、JIPPO が推進すべき方向について検討している。災害支援の分野では、ハイチ震災救援など海外の事例に取り組んでいる海外災害援助市民センター (CODE) の先進的な活動から学び、緊急支援に対応でき

るよう準備している。そして会員、協力者、支援者の裾野を広げることに力を注ぐ計画である。

このようにして NGO や NPO の運営に携わると、個々の事業や活動に必要な資金と人材に関わる悩みは尽きない。しかし、そのような事業経営の課題とともに、私たちは、仏教者として生きることを問い続ける必要がある。変貌を遂げつつある世界の一員として、親鸞聖人の教えを学び現代に生かす道は、宗門や仏教組織の枠を超えて、ヒンドゥ教徒、イスラーム教徒、キリスト教徒などに語りかけることのできる営為であろう。

(特定非営利活動法人 JIPPO 専務理事)

-
- i ダリットは、マラーティ語による不可触民に由来する。指定カースト、ハリジャン、アーディ・ドラヴィダなどは他者によって与えられた呼称であるが、ダリットは当事者による自称である。
 - ii 1989年に設立された行動する仏教者の国際組織。ダライ・ラマ 14 世 (チベット)、Thich Nhat Hanh (ベトナム) などの後援を得て、慈悲、非暴力、共存の世界を目指して、タイのシラク・シヴァラクサを中心にアジアと欧米の仏教活動家連帯するネットワーク。
 - iii 第三世界の生産者と先進工業国の消費者が、対等な交易を実現しようとする試み。売り上げの一定部分を生産者に還元する方法を採用する事例が多い。